

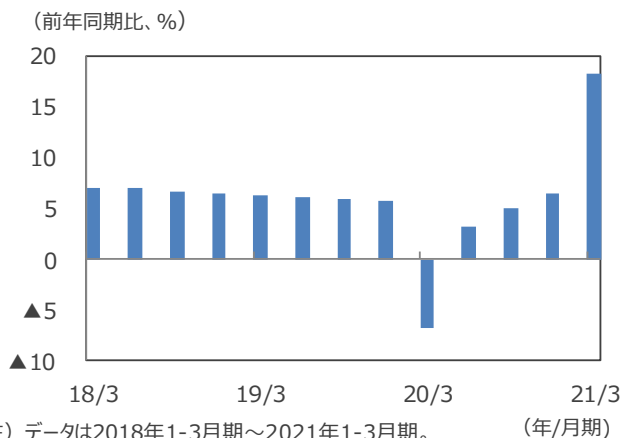


## 今日のトピック 中国のGDP成長率は+18.3%、コロナの反動で過去最高 好調な中国経済を背景に中国株は堅調さを取り戻そう

### ポイント1 1-3月期GDPは+18.3% コロナの反動で過去最大の伸び

- 中国国家统计局は16日、主要経済指標を発表しました。1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+18.3%と、過去最大の伸びとなりました。昨年の1-3月期は新型コロナウイルスの感染拡大の影響でマイナス成長に陥ったため、反動で大きく伸びました。ただ、GDP成長率を前期比で見ると、伸び率が+0.6%となり、20年10-12月期の同+3.2%からは減速しました。

【中国の実質GDP成長率】

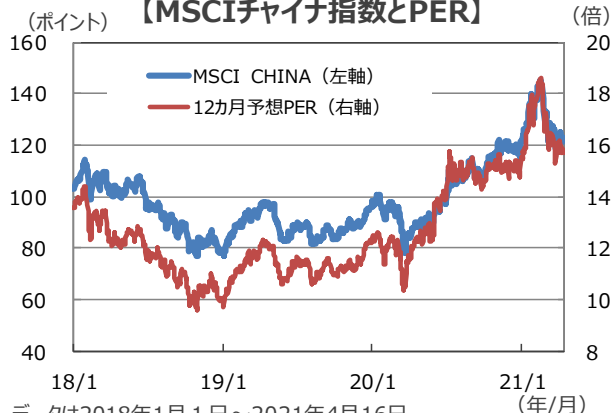


(注) データは2018年1-3月期～2021年1-3月期。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### ポイント2 小売売上高が高い伸び 生産や投資も回復が続く

- 3月の小売売上高は前年同月比+34.2%と市場予想を上回り、1～2月の前年同期比+33.8%同様、高い伸びとなりました。新型コロナウイルスの影響でこれまで出遅れていた飲食業が大幅に伸びました。
- 3月の鉱工業生産は前年同月比+14.1%となりました。特に、自動車や産業用ロボットなどの生産が高い伸びとなりました。
- 1～3月の固定資産投資は前年同期比+25.6%と、堅調でした。約6割を占める民間投資が同+26.0%と回復しています。

【MSCIチャイナ指数とPER】



(注) データは2018年1月1日～2021年4月16日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### 今後の展開 好調な中国経済を背景に中国株は堅調さを取り戻そう

- 主要指標の発表を受けた中国株式市場は、総じて堅調な内容を好感し、MSCIチャイナなどの指数が上昇しました。しかし、経済が好調にもかかわらず、同指数は2月のピークから約15%下落しています。これは景気が強い金融引き締め懸念が強まったほか、テクノロジー企業に対する独禁法適用の厳格化や米中対立激化への懸念の再燃等が背景です。ただ、バリュエーションは予想PERで15倍程度に低下しており、割高感が後退していることから、今後中国株式市場は堅調さを取り戻すことが期待されます。

ここも  
チェック!

2021年3月15日 運用者の視点：『中国企業のESG』

2021年3月10日 中国・『全人代』は財政金融政策の正常化を示唆

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。